



平成26年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年1月7日

上場会社名 米久株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2290 URL http://www.yonekyu.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮下 功
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員IR室長 (氏名) 青柳 敏文 TEL 055(929)2797
 四半期報告書提出予定日 平成26年1月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年2月期第3四半期の連結業績（平成25年3月1日～平成25年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第3四半期	105,500	0.6	784	—	580	—	46	—
25年2月期第3四半期	104,897	1.8	△315	—	△481	—	△670	—

(注) 包括利益 26年2月期第3四半期 1,025百万円 (—%) 25年2月期第3四半期 △558百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年2月期第3四半期	1.83	—
25年2月期第3四半期	△26.08	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年2月期第3四半期	63,377	36,620	57.7	1,441.37
25年2月期	61,146	36,050	58.9	1,418.86

(参考) 自己資本 26年2月期第3四半期 36,565百万円 25年2月期 35,995百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	0.00	—	18.00	18.00
26年2月期	—	0.00	—	—	—
26年2月期(予想)	—	—	—	18.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成26年2月期の連結業績予想（平成25年3月1日～平成26年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	150,000	5.4	2,050	322.8	2,000	520.4	700	—	27.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 - 社（社名 ）、除外 - 社（社名 ）」

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期決算より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年2月期3Q	28,809,701株	25年2月期	28,809,701株
② 期末自己株式数	26年2月期3Q	3,441,026株	25年2月期	3,440,675株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年2月期3Q	25,368,844株	25年2月期3Q	25,703,189株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点においては、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料に記載した予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府と日銀の経済金融政策による円安と輸出関連産業を中心とした企業収益の改善や株価の上昇など、景気回復に広がりが見えはじめました。しかしながら、消費税増税による消費減退の可能性やTPP交渉の本格化などもあり、景気の先行きに懸念も残る状況にあります。

食肉加工品業界におきましては、食肉相場が豚肉・牛肉・鶏肉の全てにおいて前年同期を上回る水準で推移し、収益改善を後押ししたものの、一方で輸入原材料価格の上昇が収益の圧迫要因となりました。また、消費者の節約志向は依然として強く、経営環境は楽観視できない状況が続いております。

このような中、当社グループは、「販売チャネルの拡大」「コンシューマ商品の増強」「デリカ商品の強化」「経営管理体制の強化」の4つの戦略に引き続き取り組みました。

具体的な施策として、まず、3月に冷凍食品の販売強化を目的に「冷食事業部」を新設、また、コンビニエンスストアへの販売拡大に向け「CVSユニット」を独立組織とし、営業力を強化いたしました。次に、4月に米久おいしい鶏糶が鳥取県に鶏舎を増設するとともに、静岡県内の2カ所の農場も譲り受け、国産鶏肉の生産体制を増強いたしました。7月には富士山の世界文化遺産登録を記念した特別デザイン商品を発売いたしました。さらに10月には北陸地方への拡販を担う新潟営業所を開設し、営業力を強化いたしました。

また、輸入原材料価格の上昇に伴い、主要加工品の価格改定を実施するとともに、継続的に物流の効率化を推進するなど経費削減にも努め、収益性の向上を図りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,055億円（前年同期は1,048億97百万円）となりました。利益につきましては、輸入原材料価格が大幅に上昇したものの、採算性を重視した営業活動や価格改定、経費削減などが奏功し、営業利益は7億84百万円（前年同期は3億15百万円の損失）、経常利益は5億80百万円（前年同期は4億81百万円の損失）、四半期純利益は46百万円（前年同期は6億70百万円の損失）といずれも大幅に改善いたしました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

<加工品事業>

ハム等の単味品は、ベーコンやローストビーフなどが好調に推移し、全体の売上高は増加いたしました。

ソーセージは、国産コンシューマ商品の「御殿場高原あらびきポーク」や「あらびきフランク」が着実に増加いたしました。また、米国子会社商品の販売も好調に推移し、全体の売上高は増加いたしました。

デリカは、コンビニエンスストア向けトンカツの販売が好調に推移するとともに、ハンバーグなどの新商品も寄与し、全体の売上高は増加いたしました。

以上の結果、加工品事業は、売上高が448億8百万円（前年同期は427億72百万円）となり、営業利益は6億83百万円（前年同期は1億67百万円）と増加いたしました。

<食肉事業>

採算性を重視した営業活動などを進めた結果、売上は前年並みとなりました。一方、輸入品の調達価格が全ての畜種で上昇したものの、食肉相場の全般的な回復も追い風となり、収益性が改善いたしました。

豚肉は、輸入品の売上が減少したものの、子会社の大洋ポーク(株)のブランド品である「瀬戸内六穀豚」など、国産品が堅調に推移した結果、全体の売上高は微増となりました。

牛肉は、国産ブランド「岩手めんこい黒牛」の売上は拡大したものの、輸入品の売上が低迷し、全体の売上高は減少いたしました。

鶏肉は、食肉相場の回復を背景に、国産品の売上が好調に推移しましたが、輸入品の売上減少が響き、全体の売上高は減少いたしました。

以上の結果、食肉事業は、売上高が591億8百万円（前年同期は597億15百万円）と減少したものの、営業利益は1億2百万円（前年同期は4億72百万円の損失）と改善いたしました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産額は、前連結会計年度末に比べ22億30百万円増加（3.6%増）して633億77百万円となりました。これはたな卸資産や有形固定資産が増加したことなどによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計額は、前連結会計年度末に比べ16億61百万円増加（6.6%増）して267億57百万円となりました。これは買掛金が増加したことなどによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産額は、前連結会計年度末に比べ5億69百万円増加（1.6%増）して366億20百万円となりました。これはその他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定が増加した一方、配当金の支払などに伴い利益剰余金が減少したことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年2月期の連結業績予想につきましては、平成25年4月11日に公表した連結業績予想から変更はございません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ31百万円増加しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,266	5,739
受取手形及び売掛金	14,461	19,379
商品及び製品	4,609	5,364
仕掛品	836	976
原材料及び貯蔵品	2,173	2,359
その他	1,856	1,230
貸倒引当金	△3	△4
流動資産合計	34,200	35,046
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,166	8,418
土地	8,310	8,430
その他(純額)	3,175	3,384
有形固定資産合計	19,653	20,233
無形固定資産		
のれん	904	817
その他	664	594
無形固定資産合計	1,568	1,412
投資その他の資産		
その他	5,761	6,712
貸倒引当金	△37	△26
投資その他の資産合計	5,723	6,685
固定資産合計	26,945	28,331
資産合計	61,146	63,377
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,750	19,041
短期借入金	456	450
未払法人税等	249	226
賞与引当金	560	934
その他の引当金	—	20
その他	3,912	4,065
流動負債合計	22,928	24,738
固定負債		
長期借入金	375	150
退職給付引当金	450	482
その他の引当金	132	85
その他	1,208	1,300
固定負債合計	2,166	2,018
負債合計	25,095	26,757

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,634	8,634
資本剰余金	8,375	8,375
利益剰余金	21,276	20,866
自己株式	△2,737	△2,738
株主資本合計	35,548	35,138
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	318	581
繰延ヘッジ損益	257	145
為替換算調整勘定	△129	699
その他の包括利益累計額合計	446	1,427
少数株主持分	55	54
純資産合計	36,050	36,620
負債純資産合計	61,146	63,377

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
売上高	104,897	105,500
売上原価	91,035	91,442
売上総利益	13,861	14,057
販売費及び一般管理費	14,177	13,272
営業利益又は営業損失(△)	△315	784
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	7	8
賃貸不動産収入	64	58
その他	268	257
営業外収益合計	342	327
営業外費用		
支払利息	14	12
賃貸不動産費用	82	59
持分法による投資損失	381	427
その他	29	32
営業外費用合計	508	531
経常利益又は経常損失(△)	△481	580
特別利益		
補助金収入	15	15
特別利益合計	15	15
特別損失		
固定資産除却損	19	107
固定資産売却損	—	21
厚生年金基金特別掛金	—	13
製品回収関連費用	66	—
賃貸借契約解約損	60	—
特別損失合計	145	142
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△611	453
法人税、住民税及び事業税	336	441
法人税等調整額	△275	△32
法人税等合計	61	408
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△672	45
少数株主損失(△)	△2	△1
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△670	46

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△672	45
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	263
繰延ヘッジ損益	21	△111
為替換算調整勘定	△2	98
持分法適用会社に対する持分相当額	96	730
その他の包括利益合計	114	980
四半期包括利益	△558	1,025
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△556	1,027
少数株主に係る四半期包括利益	△2	△1

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	加工品事業	食肉事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	42,772	59,715	102,488	2,409	104,897	—	104,897
セグメント間の内部売上高又は振替高	115	10,045	10,160	147	10,307	△10,307	—
計	42,888	69,760	112,648	2,556	115,205	△10,307	104,897
セグメント利益又は損失(△)	167	△472	△305	△9	△315	—	△315

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業及びその他の事業(飲料の製造販売、菓子等の製造販売)を含んでおります。

(注2) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	加工品事業	食肉事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	44,808	59,108	103,917	1,583	105,500	—	105,500
セグメント間の内部売上高又は振替高	83	10,318	10,401	0	10,401	△10,401	—
計	44,891	69,427	114,318	1,583	115,901	△10,401	105,500
セグメント利益又は損失(△)	683	102	786	△1	784	—	784

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業及びその他の事業(飲料の製造販売)を含んでおります。

(注2) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。